

## 【青葉区】平成31年第1回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

|         |  |
|---------|--|
| 開催日時    | 平成31年2月4日(月) 14時30分から16時まで   |
| 場 所     | 青葉区役所4階 401～403会議室   |
| 出席者     | 【座 長】山下正人議員<br>【議 員：6名】横山正人議員、大貫憲夫議員、行田朝仁議員<br>藤崎浩太郎議員、青木マキ議員  |
|         | 【説明局員(青葉区)：32人】<br>小出重佳 区長、岡田勇輔 副区長、<br>勝島聡一郎 福祉保健センター長、<br>近野真一 福祉保健センター担当部長、<br>上田祐一郎 青葉土木事務所長、<br>淵上正基 青葉消防署署長、<br>ほか関係職員   |
| 議 題     | (1) 平成31年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算(案)について<br>(2) 青葉区の主要事業について  |
| 発 言 の 旨 | 横山議員 今年から横浜全体が人口減少に入ってくるということで、横浜市の人口推移と青葉区の人口推移がわかる資料をいただきたい。   |
|         | 川合総務課長 後ほど市と区の人口推計が見られるような資料をご用意させていただく。   |
|         | 横山議員 それでは内容に移るが、3ページの「身近なスポーツの場の整備事業」について、市民局と共同して300万円の調査費をつけるということで、場所がもうできてきているので、あとは何をどのように整備するのかということだと思うが、元々あの場所にはテニスコート、ゲートボール場、多目的広場があり、その機能を復活させるという理解で良いか。 |
|         | 小出区長 31年度にまず調査・検討、という形になる。場所の形状や高さの問題等で難しい部分があるということだが、現時点では元々あったテニスコートと多目的広場を考えている。   |
|         | 横山議員 整備する予算をどこから捻出するのか、ということが一番頭の痛いところだと思う。区が予算を持っているわけでもないし、市民局のメニューの中にもないし、道路局による高速道路の整備事業はこれで終わってしまう。どこから出すのかというのが一番知恵の絞りどころだと思うが、その見込みについて教えてほしい。                |
|         | 小出区長 正直に申し上げて、現時点で明確な見込みは立っていない。ただ、今回の調査を市民局と区局連携促進事業という形で行うので、この調査を行う中でいろいろと知恵や工夫が出せないかということ、市民局や他の局にも働きかけながら考えていければと思っている。何とか整備できるようにということで頑張りたい。                  |

|             |  |
|-------------|--|
| 横山議員        | <p>関連して「青葉スポーツプラザ」について、最近ボールが外に出る事故が多発していて、そもそも防球ネットが低いのではということがあるが、スポーツプラザは民間からの浄財を集めて整備した経緯があるので、ネットを高くしようとしても財源がない。これは谷本公園に野球場ができれば問題解決なのだが、区としてスポーツプラザをそれまでの間利用していくことを考えれば、ネットを少し改良しないとイケないと思うが、その考え方について伺いたい。</p>   |
| 小出区長        | <p>区としては独自財源がないので、メンテナンス、施設管理の部分で苦慮しているような状況があり、その必要性を吟味しながら、また局と何とか連携してできるものはないかということを探っていきたいと思っている。</p>  |
| 横山議員        | <p>「鴨志田町の照明整備」について、防犯灯についてはE S C O事業でカバーしたのだと思っていたが、ここはなぜ残っていたのか。</p>  |
| 鈴木区政推進課長    | <p>15年ほど前に、区の事業としてソーラーの照明灯という形で整備した。該当場所には電柱がなく、以前は「鋼管ポール防犯灯」というスキームがなかったので、苦肉の策としてソーラー照明を活用した防犯用の照明灯を整備した。ただ、蓄電池が古くなるなど維持管理に経費がかかっているため、今回新たに「鋼管ポールLED防犯灯」という形で整備をしていきたいと考えている。</p>   |
| 横山議員        | <p>31ページの「市が尾駅周辺のサイン整備」について、どのような内容を検討されているのか教えてほしい。</p>   |
| 吉田区政推進課担当課長 | <p>「市が尾駅周辺バリアフリー基本構想」を平成28年に策定し、その中の一つでサインを更新するという事業提案をしている。それに基づいて29年度には市が尾駅周辺のサインの全体計画をつくり、今年度から一部整備を進めている。31年度は主に駅の西側、区役所寄りの一連のサイン計画について見直し、新設するものも含めて、整備を進めていきたい。</p>  |
| 横山議員        | <p>そのサインの中身は、どのようなものを考えているのか。</p>  |
| 吉田区政推進課担当課長 | <p>駅から区役所などの公共的な施設に向かう場合に、矢印で方向や行き先が案内されていて、時々曲がり角のところにあるようなサインを更新するというものである。</p>  |
| 横山議員        | <p>33ページにある、たばこのポイ捨ての関係について、青葉区内に喫煙禁止の指定エリアがまだない。青葉区の喫煙率は突出して低いので、やはり青葉区こそ力を入れていく必要があるのではないかと思う。局が指定しないのであれば、青葉区独自でやるというのも手だと思う。条例の裏づけがないので難しいところではあるが、青葉区が指定した喫煙禁止エリアだということの勢いを持ってやってもいいのではないか。</p>   |
| 小出区長        | <p>青葉区は健康のまちというイメージもあり、喫煙率が低いというデータもある。それをさらに進めていく上で何かできないか、ということは重要な指摘である。区内では、あざみ野駅周辺が本来であれば指定されるべきエリアであると考えているが、現在では近隣の事業者の方、商店の方とも協力しながら、花のプランターを置いてポイ捨てがなくなるように、あるいは吸う人がなくなるように、といった取組が進んでいる。それをさらに一歩進めていく、ということについて、強制的な対応などをどの程度区でできるのか、何か満たせるものがあるかということは、勉強してまいりたい。</p> |

|             |  |
|-------------|--|
| 横山議員        | 強制力は無理だが、そのような見せ方は工夫してもらいたいと思う。<br>最後に、谷本公園の進捗について伺いたい。  |
| 吉田区政推進課担当課長 | 早期の全面的な用地取得に向けて、環境創造局と一緒に取り組んでいる。昨年10月以降、環境創造局が最新の土地価格を出したので、それに基づき一部の地権者と取得に向けた話し合いを行っている。区もそれに同行し、早期開園、公園整備の協力についてお願いをしてきた。<br>その結果、今年度については約640㎡（二筆）の土地の買収をすることができた。このほかにも取得に向けた調整を進めている用地もあるので、それらが進められるように、早期に契約できるように頑張っていく。 |
| 大貫議員        | 「国際交流ラウンジ」について、外国人居住者が増えてきている中でその重要性が増していると思うが、区としてはどの部署が担当していて、予算上ではどこに位置づけられているのか、伺いたい。  |
| 小出区長        | 地域振興課が国際交流ラウンジの所管をしている。具体的な予算、あるいは局との関係については、地域振興課長から説明する。   |
| 鈴木地域振興課長    | 予算については、国際局からの配付予算がある。所管局は国際局になる。ご指摘の通り、今後どんどん多くなってくる外国人の皆さんに向けて、国際交流協会や関係局と連携をしながら取組を進めていきたい。   |
| 大貫議員        | 国際局は、国際交流ラウンジに直接関与していない。YOKEを通じて関わっている。国際交流ラウンジは区で予算を計上していると聞いている。<br>私も何回か行っているが、やっていることが素晴らしい。青葉区も含めて全市で9万人以上の外国人の方々が住んでいて、特に青葉区にはいろいろな方が住んでいると思うので、もっと位置づけを高めなければいけないと思うが、予算はどのくらいなのか。国際局がつけていないと言うから、どうなのかということ聞いた。            |
| 鈴木地域振興課長    | 委託費については、区の予算、施設管理費の中で支出している。訂正させていただきたい。  |
| 大貫議員        | 施設管理で予算が計上されているが、実際は業務もやっている。そこに対する予算というのはどのくらい計上されているのか。聞いたところだとかなりハードな仕事をやっているようで、他区に比べても青葉区の交流ラウンジが頑張っているようだが、それにしては予算についてははっきりしないので伺った。  |
| 鈴木地域振興課長    | 31年度の予算で、区づくり推進費で約1,100万円の予算を計上している。   |
| 大貫議員        | 1,100万円で委託していて、その中に人件費も含まれているということか。   |
| 鈴木地域振興課長    | その通りである。   |
| 大貫議員        | これは事業内容からすると足りないのではないか。そういった点に注目して、今後予算を増やしたほうがいいと思う。  |
| 鈴木地域振興課長    | 関係する部署と調整しながら検討していきたい。   |

|             |   |
|-------------|---|
| 大貫議員        | <p>事業内容が非常に素晴らしいが、その割には大変だと思っている。もう少し区の中のレベルを上げたほうがいいのではないかな。</p> <p>次に、商店街、小規模企業について、今回、局の事業予算がついたのだが素晴らしい内容で、小規模企業に対して光が当たってきたと思っている。29ページに「女性の起業支援」があるが、これは大切で、昔から取組はあるけれども、具体的にどのようなことをやっているのか、あったら披瀝してほしい。また、今回 I D E C が出張して出前でいろいろな指導を行うということだが、そういったところをうまく使って、マッチングしていく必要があると思うが、そのような考え方はあるのか伺いたい。</p>                |
| 鈴木地域振興課長    | <p>女性の起業支援の取組については、女性で既に起業されている方の講演や、その方と参加者との意見交換といった内容を検討している。I D E C の関係については、連携をとれるよう関係局との調整をしていきたいと思っている。具体的には、まずできるところからと考えており、例えばホームページの中で経済局あるいは I D E C がやっているような事業にリンクを貼り、利用したい方につなぐというようなことを考えている。</p>   |
| 大貫議員        | <p>局の予算で素晴らしい原資があって、それを使えば伸びると思うが、いかに区の中でそれをお知らせしていくか、というのが非常に重要である。そういった意味では、インターネットなどで見るかもしれないが、区内でも小規模企業が8割ぐらいあるのではないかなと思うが、そういった中では、作業としてインターネットだけでは足りないと思う。その他にも、例えば業務改善事業ということで設備資金の投資の助成や、小口応援特例という今までなかった仕組みを作るといったことを市でやっているというのを区の中でも知らせてほしい。インターネットを見ない人もいる。そういうことも含めて、様々な論議をして、商店街などにもきちんと知らせていく作業が必要だと思うが、どうか。</p> |
| 鈴木地域振興課長    | <p>昨年も経済局が作成した税関係のチラシを区役所の中で配布させていただいているが、当然インターネットをご覧になれない方もいるので、局で作っているチラシ、I D E C で作っているチラシなどがあれば、ご案内をさせていただきたいと思っている。</p>   |
| 大貫議員        | <p>これは利用すれば助かる方がいっぱいいると思うので、ぜひそれをお願いしたい。局の仕事と区の仕事という意味では、具体的に区でお知らせしないと進んでいけないと思うので、ぜひお願いしたい。</p> <p>最後に、31ページの「街づくり推進事業」について、昨年11月に藤が丘駅周辺の新しいまちづくりに関して、素案の意見に対する公募があったが、区づくり予算には全然位置づけがない。非常に大切なことだと思うのが、なぜここに位置づいていないのか。</p>  |
| 吉田区政推進課担当課長 | <p>3ページの「区局連携促進事業」の表の上から4つ目「田園都市線沿線まちづくり検討事業」の600万円が、該当する予算になる。この中で、区としては藤が丘駅周辺の駅プランの改定を進めている。</p>  |
| 大貫議員        | <p>例えばワークショップなどは区の予算では全然やらないということか。事業をやる以上は予算がなければできないが、先ほど説明のあった区局連携促進事業の予算だけで、区の独自の予算はないのか。</p>   |
| 吉田区政推進課担当課長 | <p>この事業は区局連携促進事業として実施しているので、自主企画事業費としては計上していない。</p>   |

|             |   |
|-------------|---|
| 大貫議員        | <p>これは、これからの田園都市線沿線のまちづくりの中で非常に大きな仕事だと思う。特に注目しているのが、藤が丘駅周辺のまちづくりで、ここは地権者としては藤が丘病院や東急電鉄があり、市は道路と公園ぐらいしかない。そのような中で、個人的には、区民の要望が反映しにくくならないよう、組織的な仕組みを作らないとまずいのではないかと考えている。具体的にどのような形で考えているのか、常に進捗状況の報告がないといけないと思うが、予算が計上されていないとわからないので、その点はどう考えているのか。</p>  |
| 小出区長        | <p>田園都市沿線まちづくり事業の検討については、藤が丘駅周辺のまちづくりに関して、藤が丘病院・東急電鉄・都市整備局が三者連携で今年の秋に発表した部分は都市整備局所管ということになるが、田園都市線沿線まちづくりという観点での藤が丘駅、あるいは他の駅については、区が横串を刺す形で関係者と協議を進めていく。区づくり会議の場においても、節目節目でご説明申し上げているので、また次回には進捗状況のご報告をさせていただきたいと考えている。</p>   |
| 大貫議員        | <p>素案の発表の際も、それまでの関係者での話し合いの内容が、後から連合町内会や周辺自治会に報告される形になっている。住民の皆さんがここに関わってくるような仕組みが必要だと思うので、そこはぜひ気をつけてやっていただきたい。</p>   |
| 行田議員        | <p>確認だが、統合事務事業費について、局で聞いたときにこれで青葉区の自主企画事業が増えると思ったのだが、その予算は地区センターやコミュニティハウスなどの施設管理費のほうに回っているのか。</p>  |
| 川合総務課長      | <p>統合事務事業費は、自主企画事業から抜き出して区の裁量の少ない事業を束ねたもので、その分、自主企画事業費の財源が実質的に増えたということになり、それを新規・拡充事業に充てさせていただいた。統合事務事業費として抜き出された事業に関しては、区づくり推進費の一部としてそのまま残るという形になる。</p>   |
| 行田議員        | <p>新規がそれほど増えていないな、という印象があったもので、もっと増えてもいいのかなと思ったので確認した。<br/>乳幼児関係で、来年度予算で横浜市内で5区に「母子保健コーディネーター」が配置され、その中に青葉区が選ばれているということで良かった。現在配置に向けて準備が始まっていると思うが、今ある仕組みにこの母子保健コーディネーターが配置されることによって、このように良くなる、このように変わっていく、という変更点がわかれば教えてもらいたい。</p>   |
| 樋田こども家庭支援課長 | <p>青葉区もモデル事業ということで来年度から実施されることになった。横浜型ということで、横浜市の場合には区のこども家庭支援課と地域子育て支援拠点が両輪としてやっていくことになる。今までよりも、出産する前、妊娠届出時からしっかりとかかわることができるようになる。青葉区の場合は特に3人のコーディネーターが配置される予定になっているので、これまで以上にしっかりと妊娠期からの支援ができると思っている。妊娠から出産、そして特に産後4か月までを中心にフォローをしていくが、その後も保健師と連携しながら、また地域の目線で事業を実施している地域子育て支援拠点との連携といった、区の専門性と地域子育て支援拠点の支援者の目線というところでより良い連携ができると思っている。<br/>これとあわせて、青葉区の場合には「あおばこどもシステム」があるので、地域子育て支援事業で出たニーズや課題について、つながりミーティングでも話をしていくことで、障害児支援、虐待防止、健全育成など、包括的な支援が引き続き充実するのではないかと考えている。</p> |

|             |   |
|-------------|---|
| 行田議員        | 14ページの「敬老祝品贈呈事業」について、これはこれでいいことだが、青葉区の最高齢の方は何歳で、100歳以上の方は何人いるのか、すぐわかれば教えていただきたい。その上で、これは要望なのだが、先ほど自主企画事業の話でもあったが青葉区は日本で一番の長寿の街なので、それこそ青葉区らしい、青葉区でお年を召すと区長からお祝いを受けるとか、最高齢でなくてもいいのではといったことなども考えてもらえればと思う。本当は市長からあればいいのかもしれないが、区長からもお願いしたい。  |
| 松永高齢・障害支援課長 | 100歳以上の方の人数について、30年度中に100歳以上になられる方は175人で、最高齢は112歳が1人、続いて111歳が1人、110歳が1人、次は108歳が3人ということで、以下少しずつ増えていく状況である。   |
| 小出区長        | 現在の事業では、9月の敬老の日の前後に、区内の最高齢の男性・女性の方に対し、区社協と一緒に訪問させていただいている。  |
| 行田議員        | 19ページの「災害時のペット対策」について、今回は予算案の状況なのでこの内容だが、昨年10月に厚生労働省からペットの防災に関する新たな指針が出ており、健康福祉局でも新しいパンフレットを作っている。区でも、来年度に向けてトーンダウンしないように頑張っていたいただきたいが、その意気込みを聞いておきたい。  |
| 松野生活衛生課長    | ご指摘の通り、健康福祉局で今月中にガイドラインを作る予定だと聞いている。その内容を確認して、新しい部分があればそれも含めて、広報よこはま青葉区版や各地域防災拠点運営委員会等で積極的に啓発していきたい。  |
| 行田議員        | 受入訓練を実施する拠点を増やすように、大変だが頑張っていたいただきたい。最後に「V P P 構築事業」について、今年度は実験的な意味合いもあって港北区でまとめてやったのだろうが、一方で温暖化対策統括本部の31年度予算案を見ると、他区の地域防災拠点に10数か所設置することになっている。青葉区はこれとは別に、市ケ尾中学校についたのは良いことだとは思いますが、次の32年度は青葉区にも多く設置してもらいたい。奈良の丘小学校と谷本中学校の2校もうまくいっているということを知っており、実験内容も良いと聞いてはいるが、何といても41か所ある地域防災拠点には早急に配備してもらいたい。先々月の本会議でも取り上げさせていただいたが、再来年度は青葉区にも多く設置していくという意気込みをお聞きしたい。 |
| 小出区長        | 青葉区に早く設置されるよう関係部署と調整してまいりたい。今回設置する市ケ尾中学校は区災害対策本部の代替施設であり、これをフックにして「温暖化対策プラス事業」の予算を積極的に活用したもので、まず太陽光発電設備を設置していく。<br>また、その他の地域防災拠点についても、再来年度に向けて早期に構築が進められるよう頑張ってもらいたい。   |
| 藤崎議員        | 7ページに「特定健診の受診率向上事業」があるが、健康福祉局予算の中で、今年度は勧奨通知のやり方を変えて、状況やターゲットに応じた勧奨通知を送ることでより高い受診率を目指そうという事業予算が計上された。青葉区として、啓発やチラシ作成といった記載があるが、どのように補完し合う予定なのか、結果のトレースや効果測定をどのようにしていくのか、ということをお教えいただきたい。   |

|          |   |
|----------|---|
| 滝本福祉保健課長 | <p>特定健診について、区の啓発としては保健活動推進員と連携して地域の行事などの機会に啓発活動を行っている。8月には保健活動推進員の理解促進のために、「特定健診を学ぼう」というテーマ研修会を実施しており、93名の参加を得ている。また、区民まつりと一緒にやっている11月の健康フェスティバルで、特定健診の啓発ブースを設けて540名が来場している。引き続き医師会、薬剤師会、歯科医師会のいわゆる三師会や保健活動推進員と連携して、局の事業と並行しながら区民に直接的な啓発活動を進めていきたい。来年度の予算としては、啓発を行う際のパンフレットや啓発物品を作成する予算を計上している。</p>   |
| 藤崎議員     | <p>健康フェスティバル等は今年度も行っている中で、資料中に「新規」と書かれているのはそういった物品作成のみか。</p>  |
| 滝本福祉保健課長 | <p>新規の主な内容は、啓発物品の作成になる。</p>   |
| 藤崎議員     | <p>具体的にどのような啓発効果を得られる物品を作る予定なのか。</p>  |
| 滝本福祉保健課長 | <p>今年度、局から配布された花の種を啓発物品として配ったりしたが、そのようなもので特定健診について啓発につながるものを、これからいろいろ考えていきたい。</p>   |
| 小出区長     | <p>啓発物品はどのようなものが効果的かという部分については、きちんと吟味して考えなければいけない。また、それと同時にどう活用するかということでは、三師会等ときちんと連携して、どのような形で啓発を行うことが一番効果的かということも考えながら進めてまいりたい。</p>   |
| 勝島センター長  | <p>区民の皆さんへの普及啓発も本当に大事だが、それに合わせて医師会の先生方の会合でもお願いをしていくこと、先生方お一人お一人に具体的にお話をしていくこと、実際に健診をやっている医院以外の、耳鼻科、眼科、歯科医師会の先生方にも通院されている方へお勧めしていただくこと、薬剤師会から薬局でお勧めしていただくことなど、区民の皆さんと医療の先生方の両面から多角的に取り組んでいく。</p>   |
| 藤崎議員     | <p>健康福祉局も予算をつけて、データ活用やより具体的な健康施策の充実を、効果に基づいてやろうとしている中で、区もちゃんと補完できるような取組にしていきたい。</p> <p>27ページの「スマートフォンアプリ」について、発信情報の拡充ということで、子育てなどいろいろな区の情報を載せていくのは良いことだと思っている。広報よこはま青葉区版に掲載されているような情報は、ウェブ上では見られるものの、プッシュ型で行政側からアプローチする方法が今までなかった。私もこれまで広報よこはまを電子書籍化して流通させるべきではないかと、市民局に対して言ってきたが、なかなか動かず、そのような意味では既存のアプリを活用してそういった情報が出せるのであれば良いことだと思う。広報よこはまの情報ははじめ、いろいろな情報を載せることができ、発信頻度などもいろいろとコントロールできると思うが、どういった情報をどれぐらいの量で出していこうと考えているのか教えてほしい。</p> |
| 川合総務課長   | <p>具体的な内容や頻度はこれから詰めていくが、スマートフォンアプリからも青葉区のホームページが見られるので、プッシュ型という新しい部分を活かして新着情報を中心に発信していきたいと考えている。今まで防災情報の発信だけだったものから、イベント情報や防犯情報などにも情報の幅を広げ、普段から使っていただく、いつも見ていただけるようになる、というところを目指してやっていきたい。</p>  |

|             |   |
|-------------|---|
| 藤崎議員        | 区内にも様々な民間事業者、法人格を持っていたり持っていなかったりというのはあると思うが、いろいろな情報を集めて発信している団体、NPO、株式会社などがあると思うので、そういったところともうまく連携を図って、協働事業として情報の収集と発信ができると、より良いアプリの活用につながるのではないか。そういったことは検討されているか。   |
| 川合総務課長      | 現段階では、あくまで区から発信する情報を想定しているので、ご指摘いただいた内容は今後の課題と考える。  |
| 藤崎議員        | 最後に、29ページの「データ活用推進事業」について、1～2週間ほど前に庁内でGIS等のオープンデータに関する勉強会が職員向けに行われたと聞いているが、先ほど説明のあったスマートフォンアプリの活用等は、オープンデータ等と非常に強い親和性もあるし、区が発信する情報をIPIで公開していくといったやり方もあると思うが、31年度はどこが新規でどのように進めようとしているのか教えてほしい。  |
| 川合総務課長      | 予算上では、職員向けのGISの講習といった研修費の部分と、GISのライセンス料が新規となる。昨年度、今年度と庁内プロジェクトで進めてきているが、まだプロジェクトメンバーが中心になっているので、それを各課の職員にも広げていくことを目指している。   |
| 藤崎議員        | 今、指摘したようなところで、いろいろな事業のデータをうまく活用していくというのがもっと必要だと思うので、青葉区から推進していただきたい。  |
| 青木議員        | 12ページの「サポートファイル かけはし」について、昨年度、障害児に対する途切れない支援ということで、期待されて作ったものだと思う。実績というとなかなか見えづらいところはあるが、活用状況について、実感として今のところどう捉えているのか伺いたい。  |
| 樋田こども家庭支援課長 | 「かけはし」は2,000部作成したが、現在1,250部ほど配布している。また、どのくらい閲覧されているかはわからない状況だが、区のホームページ上でも閲覧できるような形になっている。書き方講座にいただいた保護者の皆さんからは、こういったツールがあって良かったといったご意見や、今まで何度も同じことを説明しなくてはいけなかったことがこのノート一冊で説明することができたというお声をいただいている。支援者からは、何度も同じことを聞いていたことが聞かずに済んだというご意見や、その分利用者さんのお話を聞くといったところにしっかり時間をかけることができ、より良い支援につながった、というお声を伺っている。また、他都市からも「かけはし」を使いたいというお声もいただいている。 |
| 青木議員        | 「かけはし」については実績、また実感が伴ってきているのかなと思う。今回新規事業になっている「地域資源マップ」について、障害児にかかわる地域の資源をマップ化するという事は非常に良いと思うが、予算額は20万円だけなのか。  |
| 樋田こども家庭支援課長 | マップの作成にあたっては、自立支援協議会の児童支援部会で一緒に作成しているが、今年度については地域活動ホームの予算も使いながら作っている。来年度は、それをさらにより良いものとして、区の予算を使って段階的に作っていくことを考えている。  |
| 青木議員        | 来年度予算で20万円で作れるということか。   |
| 樋田こども家庭支援課長 | この予算額で作成できる見込みでいる。  |



|             |  |
|-------------|--|
| 青木議員        | <p>非常に厳しい予算額だと思うが、せっかく作るの、より良いもの、きちんとしたもの、次につなげられるものを作っていかなければいけない。そのあたりの予算上のケアをしていただけたらと思う。</p> <p>31ページの「シェアリングエコノミー」について、昨年始まった際に拝見したが、登録者数がその時はほとんどなくて、一体どうなっていくのかと思ったのだが、現状はどうか。</p>  |
| 鈴木区政推進課長    | <p>昨年11月1日に特集ページを開設し、1月15日現在、登録されているスペースは27件となっている。11月1日現在からは4件増加している。利用件数は、11月1日から12月31日までで14件あった。前年度比では、29年の同じ2か月間では7件だったので、利用としては昨年11月～12月の2か月間は2倍に増加している状況である。なお、1月の区連会でPRチラシの回覧をお願いしており、今後もPRを進めていきたいと思っている。</p>  |
| 青木議員        | <p>中にはカラオケ店なども入っていて、良いか悪いかは別にして、本当に必要なレンタルスペースが有効活用されるよう、しっかり結びついていくと良いと思う。</p> <p>もう一点、今回の資料にはないが、地域での移動の課題、郊外部の移動に関する課題は非常に重要だが、現在たまプラーザ周辺で、モデルで実証実験がされているかと思うが、区としてはあまり関係がなく、建築局に聞くべきことなのかもしれないが、状況について教えていただきたい。</p>   |
| 吉田区政推進課担当課長 | <p>次世代郊外まちづくりの一環として東急電鉄が主にやっている取組だが、行政では建築局住宅再生課と一緒にやっている。区としては、予算を出しているというようなことはないが、情報は共有させていただき、例えばデマンドバス関係では、ルートを決める際の意見交換などに出席したりしている。</p>   |
| 青木議員        | <p>社会実験は3月までとなっているので、その後はどうなるのかということも気になるところだが、たまプラーザに限らず、こういった取組が地域に広がっていかないといけない。これから高齢化が進む中で、例えば80歳を超えた方が免許を返上して、その後どうしたらいいのかという声があちこちで聞こえてくる。そういった取組が全区に広がっていくような方向になったらいいなと思っているが、この予算の中では全然見えてこない。方向性としてはどうなのか、考えを伺いたい。</p>  |
| 小出区長        | <p>青葉区だけではないが、土地の起伏が大きい街において、高齢化の進展とともに移動の手段を確保していくことは本当に大事な課題だと認識している。そのような中で、区独自で地域における交通を構築するというのはなかなか難しい面もある。民間事業者ではMaaS（マース）と呼ばれる、いわゆる移動手段の革命のようなことを、各企業が競って将来の事業に位置づけていこうという動きもある。そのような動きも捉えながら、どうすれば横浜市、特に郊外部における地域交通を新たに確立できるかということ、区だけでなく局においても検討していくよう働きかけているところである。青葉区の中で、来年度そのような事業を実施するという事は、局も含めて予定されていないが、市全体の検討とともに区内でそのような検討が進んでいくように、また実証も進んでいくように、あるいは民間事業者で行っていただいた内容を区も一緒に共有しながら、次はどのような形での展開が良いだろうかということと一緒に考えていきたいと思っている。</p> |
| 山下議員        | <p>別添資料2の「あおば健康スタイル」について、青葉区の魅力の中で「犬の登録件数が多い」という項目が出ている。決算の時にも話したが、これだけ犬の登録件数多くて、犬の健全飼育の観点からも、また、現状では港北区のドッグランまで行っている方が多い中で、区内にドッグランを整備できないか。</p>  |

|          |  |
|----------|--|
| 鈴木区政推進課長 | <p>現在、谷本公園の一部で仮設のドッグランを開設しており、当初、今年3月までの開設だったが、1年延長することになっている。公園内のドッグランというような形では、港北区や磯子区等にもあるので、まずは環境創造局と調整しながら、そのような余地がないのか当たっていくのが良いのではないかと考えている。</p>  |
| 山下議員     | <p>これだけ犬の登録件数が増え、街の特徴となっている中で、すぐにできないとは思いますが検討はできると思うので、よろしくお願ひしたい。<br/>次に「オーラルフレイル」に関して、市議会で歯科口腔保健条例案を提出しているところだが、新規の取組ということで、条例案を踏まえた中で前に進んでいくような内容になっているか。啓発事業に少し勢いがつくような内容になってくるのか。</p>  |
| 滝本福祉保健課長 | <p>青葉区は区の歯科医師会と緊密な関係にあり、次年度の新規事業でオーラルフレイル予防の普及啓発に向けた講演会を開催する予定である。具体的な内容は決まっていないが、区歯科医師会とは少し盛大なものをやろうということで検討しており、歯科口腔については積極的に取り組んでいこうと考えている。</p>   |
| 山下議員     | <p>講演会は大事だと思うし、周知を広げていただくことは大事なのだが、現場のケアプラザなども含めて、口腔ケアによって介護改善につながるというところで、条例の内容を踏まえた取組をやっていただきたいということで、我々議会サイドから条例を出そうと考えているので、青葉区の中に元気な高齢者を増やすためにもオーラルフレイルにしっかり取り組んでいただきたい。<br/>最後に、ラグビーワールドカップの開幕に向け、新規事業で区民利用施設を利用していろいろなイベントを開催するというところだが、荏田小学校（都筑区）の横に清水建設のグラウンドができた。ここには社会人のラグビーチームが来て、また青葉区には「田園ラグビースクール」という伝統のある子どものラグビースクールもある。区民利用施設で実施するだけでなく、そういった民間団体もしくは企業チームが青葉に来るとこの機を逃す手はないので、そういったところと連携をする意味でも、こういった団体や企業に協力していただくとか、一緒にやるといった、そのような計画は出ているのか。</p> |
| 鈴木地域振興課長 | <p>まず区の事業としては、予算の中で地区センターやスポーツセンターと連携してイベントを行っていきたいと思っている。<br/>また、民間事業者との関係について、実際のグラウンドの場所は都筑区になるのだが、市民局にこういった施設があるということを伝え、連携ができないかということをお話している。その後どうなるかという話は今のところ来ていないが、いろいろな機会を捉えて周知や広報などを行っていきたくと考えている。</p>   |
| 山下議員     | <p>あのグラウンドは、確かに場所は都筑区になるが、設置に協力したのはほとんど青葉区民である。地権者が協力したからできた。青葉区の方々が協力してできたのだから、青葉区のイベントなどにも協力してほしいと言ってもばちは当たらないと思うので、そこは強く言っていただきたい。</p>  |